

Hospital 病院クローズアップ

国立病院機構

琉球病院

地域の医療ニーズに合った精神科医療を追求し
誇りを持って働くことのできる医者に

琉球病院は精神科の単科病院であり、特化した診療をしているのが特徴といえます。目標としては精神科の専門医を育てたい。例えば、地域精神医療分野の専門医、アルコール依存の専門医、小児思春期の専門医、認知症の専門医などです。地域定住といいますが、入院ではなく人を介してACT的な地域医療の専門医を育てていきたいというのが病院の理念です。裏を返せば、沖縄は専門医があまり育っていないのです。地域に還元できる医者を育てようと思うと、どうしても専門医ということになります。

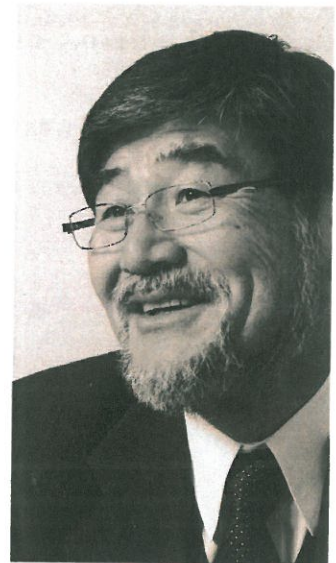
もうひとつに病院が郊外にあるということもあげられます。人口が少ないので、救急医療は成り立ちにくい。専門医療でもない限り維持できないという側面もあります。

研修医の方に対しては、基礎的なものから専門的などころまで、プログラムはしっかり作ってあります。ただプログラムといっても、我々は琉球病院の中だけで研修しているわけではありません。今テレビ会議システムというのを使って、8つの施設で週に2回、自分たちの得意分野のレクチャーを行っています。研修医だけでなく、看護のためのプログラムとか、あるいは我々のわからない分野をスーパーバイザーに指導してもらうこともあります。要するに、自分のところだけではできないレベルの情報を提供したり、症例検討をしてスーパーバイザーに聞く

というような場を提供しているのです。

強調したいのは女性医師の存在です。我が国では新規医師の3割が女性医師です。彼女たちはちょうど研修を受ける頃に結婚や妊娠・出産、子育てという時期に重なります。それをどんなふうにするかということが重要だと思うのです。それは男性医師だったら2年でできるところでも、3年なり4年なり、時間をかけて研修すればいいという考え方です。おかげで今は8人に増えました。専門医を育てるには短期では難しく、そういう意味では女性が適しているのかなとも思います。そしていずれはここで育った人に将来、沖縄のみならず、全国で活躍してもらい、逆に外に出ていた人がまた戻って来て…というようになれば、これが人事交流にもつながると思うのです。

専門医には志を高く持って欲しいですね。精神科の専門医なので、心の意志を高く。それにはまず臨床の場面の患者さんをいかに治せるか、見立てができるか、そして評価ができるかだと思います。それも沖縄のレベルではなくて、日本の高いスタンダードのレベル。できれば世界と比較しても変わらないレベルに持っていく。自分の医療レベルを高めて欲しいし、そのための努力をして欲しいと思います。そのサポートを我々がしていきます。それを短期的ではなく、長い目で、本人のライフサイクルに合わせてサポートしていきたいと考えています。



院長PROFILE

村上 博(むらかみ ますか)
1949年生まれ、74年九州大学医学部卒業。
66年国立肥前療養所精神科医長。2002年国立肥前療養所臨床研究部長、同年King's College London Institute of Psychiatry (司法精神医学研究所) 長補研修。
2005年花巻病院臨床研究部長(併任)を経て、2006年琉球病院院長に就任。
日本司法精神医学会理事、日本アルコール関連問題学会幹事、NGOベンチャーの副会長として活躍。

琉球病院 DATA

■ 所在地

沖縄県国頭郡金武町字金武7958-1
<http://www.hosp.go.jp/ryukyuu/>

■ 病床数

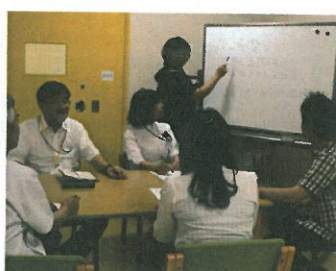
406床

■ 診療科目

アルコール部門/一般精神科医療部門(入院)/一般精神科医療部門(外来)/デイケア部門/クロナジン部門/mECT部門/包括的地域精神医療部門/こども診療科部門/重度心身障害者部門/認知症部門/セカンドオピニオン部門/司法精神医学部門/教育・研修・研究部門

■ 研修の特色

特色はなんといっても多職種診療です。精神科は心理療法士や保健福祉士、作業療法士、あるいは地域の保健師や介護士などといった多様な職種の人々が目的をひとつにしながら多職種にかかわるもので、それをチーム医療と考えます。そして当事者だけでなく家族の支援も行い、新しい治療方法も開発し、安心安全な医療、地域のニーズに合った精神科医療を進めています。



琉球病院のある街

心地良い温暖な亜熱帯気候で、自然の恩恵を存分に受けられる環境

沖縄の人口は約130万人。そのうち本島に住むのが110万人で、そのほとんどは南部に集中し、琉球病院の建つ北部の人口はわずか10万人。琉球病院は、中央部東海岸に広がる、サンゴ礁の連なる金武湾を一望できる小高い丘に位置する。湾からは1年中気持ちの良い風がそよぎ、ハイビスカスやブルメリアなどの花が咲き乱れ、小鳥がさえずる恵まれた自然環境に囲まれている。

スキューバダイビング、ウインドサーフィンなどスポーツを楽しむには最高の環境で、沖縄本島中央に位置する金武岬では魚釣りや潮干狩りもでき、マリッジレジャーが満喫できる。また、海岸沿いの国道329

号線は行きかう車も少なく、サイクリングには最高のロケーションだ。手軽にできるスポーツとしては昨今マラソンが人気で、大会も多く開催されている。那覇マラソン大会には琉球病院の医師も数人出場しているそうだ。

金武町には各所に有名な湧水があり、なかでも金武大川は新沖縄観光名所100にも選ばれ、観光客も多く訪れる。また55年ぶりに復活した棒スケエや30年ぶりに復活したミルク踊り、町指定文化財に指定された南又鳥(フェーヌシマ)などの数多くの伝統芸能が受け継がれ、継承発展に努めている。

